

品川支部

平成30年5月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

5月

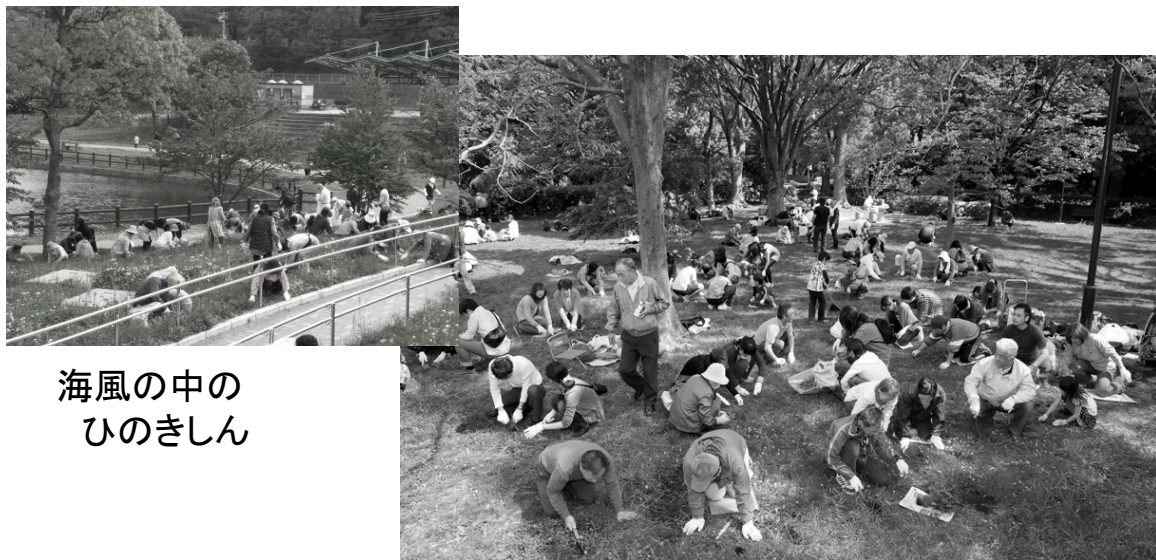
天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

ゴールデンウィークは ひのきしんデーから

今年も全国一斉ひのきしんデーがやって参りました。

品川支部は明治神宮から、こちらの大井中央公園・なぎさの森会場に
変わって久しく、より家族そろって楽しめる会場となりました。

運河と広い木の下でのお弁当とお楽しみ抽選会の豪華賞品で大いに盛り上がり、
楽しい連休の幕開けになります。
会場へのアクセスは別紙パンフに詳しく、また先月号の2頁目でも確認して下さいね
是非、お誘いあわせの上、気持ちよい一日を楽しんで下さい。



海風の中の
ひのきしん

この後、楽しいお弁当と大抽選会

☆支部行事のお知らせ

・支部例会

五月三十日

(詳細は2頁)

・神名流し

一日(火)十時から、大井町駅前にて

・在宅センターひのきしん

五月二十九日(火)午前九時半〜十一時

・教区ひのきしん

担当は日本橋組ですので宜しくお願い致します

☆教務支庁からのお知らせ

・鼓笛・バトンコンクール

先日板橋区で行われました鼓笛バトンコンクールで
バトンの部では久しぶりに東本のバトントワラーが
優勝、又鼓笛は昨年と同じ本理世の鼓笛隊が優勝
致しました

・東京わかぎ塾(中学生錬成会)参加募集

東京わかぎ塾。五月十二、十三日開催です
中学生を対象に楽しく皆で過ごし友達作りにも
役立っています。五月四日までに、お申し込み下さい

・支部婦人会からのお知らせ

・母親講座 五月三十一日教区にて

・教会婦人懇談食卓会

先月後でお知らせ致
しました、以前より婦人
会でお世話下さいました
方を中心に、懇談食卓会
を行いました。



一回目で参加者は少
なかったのですが、久しぶ
りの懐かしい顔合わせで
楽しく過ごしました。
又、企画致しますので、是非参加下さ
い

・四月四日記念祭模擬店

今年も品川支部は焼きそば
いつもながらの人気であつたとい
間に四百五十個が売れ切れ
その他、
深川飯、
ラーメン、
おしるこ、
更には、
くさやの
干物まで、
味を競っ
ていまし
た。



拠点教会	5月13日号 (5日合併号)	20日号	27日号
日本橋	直送	手配り	直送
本荏	直送	手配り	直送
都南	直送	手配り	直送
三ツ木	手配り	手配り	直送
水豊田	直送	手配り	直送

時報手配り五月予定

五月は連休等で左記に
なります

品川支部例会

平成30年5月30日 (水)

11時開始

場所 日倉分教会

(品川区西五反田6-15-1)

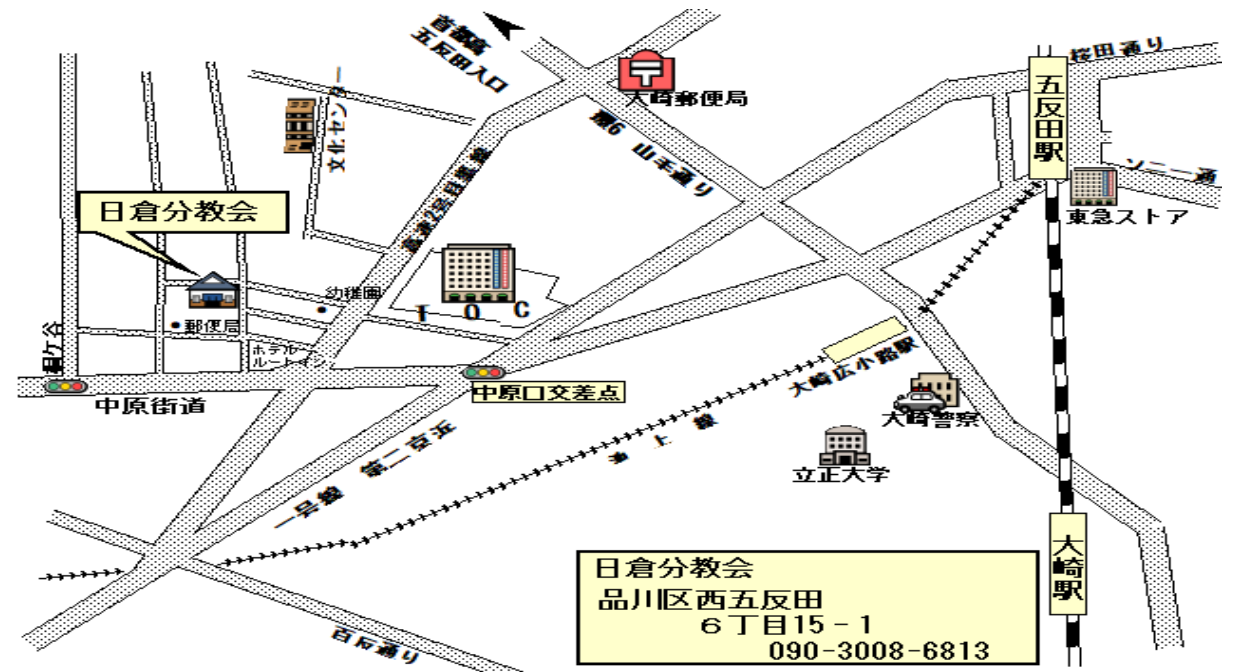
内容 おつとめ よろづよ八首 五下り 目

東京教区、支部連絡事項

当該教会長齋藤先生 挨拶

昼食の用意頂いてます

*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



教会紹介

本月井分教会



本月井分教会初代会長石井萬太郎は、明治十八年六月神奈川県横浜市に生まれ、同四十一年、東京都本所に居を移す。翌年十月に堀コトと結婚、娘五人が授るが、三十八歳の時、関東大震災で妻と五人の娘を亡くす。

大正十三年五月、自身身上の折、仕事仲間の本月宣教所の豊田文四郎(後に本船橋初代会長)よりをいがけられた。後、二人の連れ子を持つ石井たねを後妻に迎へ、十五年、一重(かずえ)出生。その娘二歳の時身上をお助け頂いたが、一重が四歳の時たねは出生した。

八年三度目の妻に深井ムメを迎え、八年、九年と、各々おさづけの拝戴。昭和九年、本月支教会、倉持とき(後に本富岡

二代会長)が同居して布教を始め、鉄工所を経営しながら、同姉を扶け布教の一端に力を添えた。十年七月、萬太郎は別科五十四期終了。同時に本月の信徒総代になる。夫婦は人たすけに燃え、当時萬太郎の会社で、夫と死別の鈴木すゑよの二女、七歳のミヤ子を引取り養女とした。十一年には、石井布教所を開設。十二年本月、世田谷区代田に神殿普請時、大いに御用に勤めさせて頂いた。ムメは、布教と従業員の面倒に勤めたが、四十一歳の時に視力の衰えを夫には内緒で医者に診て貰ったが、両目は失明することになる。

一重は、二十年天理女子専門学校卒業後、上級本月に入込み、本月青年婦人会発足時から庶務部のご用を勤めていた。

この様な伏せ込みの道中教会は二十二年六月二十五日、信徒も増え、萬太郎初代会長の基、本月井分教会の名称が設立された。

この後も、宣子九歳を養女縁組み、三十一年には、一重は、小西いつみ様(都大教会前会長)紹介で杉浦亘と入り婿で結婚、共に助けに励み、多くのご守護頂いた。

三十五年三月には、萬太郎は七十五歳で出直す。二代会長には、一重の夫、石井亘が四月就任。亘は大正十年十二月、愛知県碧南市で出生。第二次世界大戦に従軍した。二十九年暮、不動産会社の同僚が欠勤で、家(都カ分教会)を尋ね、居合わせた会長千葉よしこからこの道のお話を伺い、その後、退職し、御本部ひのきしん隊に参加。

三十年四月、修養科を修了。続いてひのきしん常備隊につとめる。八月末帰京し、都カ分教会の青年として後、一重との結婚、三木夫、二三夫、康元をもうけたが、四十六年一重は心臓病で四十六歳で出直した。

四十九年七月には、市川コトが娘信子の身上から信仰、後に本人九ヶ月

入院するも、退院したら「おちばへ帰り初席を運ばせて頂く」と心定めをした。母コトは、この時に亘に連れられ、初めておちばに帰り初席を運ぶ。教祖九十年祭の二月信子の父市川惣七も初席を運んだ。五十二年に修養科終了した市川信子は、五十七年に亘と結婚。力を併せ上級の勤めと、信者の丹精に励む。

平成七年七月、二代石井亘は七十二歳で出直す。同年十月二十四日、三代会長に石井三木夫就任。三木夫は、昭和三十二年二月生。昭和五十年天理高校卒業後、教人登録。五十年五月、二年間、六十年四月から六年間と二度にわたり本月に入込青年として勤める。平成十九年六月二十三日、三木夫は口栗野分教会教人(日光部属)鹿倉恵理と結婚。二十一年三月に長男勇喜誕生。

現在は、母信子と、家族四人そろって、元気に勤めさせて頂いている。